

主 題：敵であるサタンの敗北5

聖書箇所：ヨハネの黙示録 12章15-17節

私たちはこれまで特に、この患難時代に現われる7人の登場人物について学んでいます。今回は、「竜に迫害される女」ということを13節からのみことばを見ました。

E. 竜に迫害される女 13-17節

1. 「竜」の迫害 13節

第三の天、つまり、神が臨在しておられるところから落とされたサタンは、これまで以上にイスラエルを迫害すると、そのことが13節に記されていました。これまでにないような大変な迫害が起こると言います。これは主イエス・キリストがすでに預言しておられたことです。主イエスは預言者ダニエルの預言が成就することを告げておられました。マタイの福音書24章に記されています。そこにはこのように書かれています。24：15-22「:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように。):16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。:17 屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。:18 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。:19 だがその日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。:20 ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。:21 そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。:22 もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。」、大変なことが起こるから、大変な迫害が下るから逃げなさいという命令です。確かに、イエスはダニエルの預言を引用してこのように言われました。

ある人たちはこの預言はすでに過去に起こったことだと言います。

・紀元前約2世紀に起こったことだと言う

シリアの王アンティオコス4世エピファネスが、紀元前168年にエルサレムに攻め入ったとき、エルサレムの神殿の中の祭壇をゼウスの宮とし、しかも、そこで豚をささげるということを行ないます。この出来事がまさにイエスが言われた預言の成就だと言います。

・ティトウスによって紀元70年にエルサレムが陥落したとき

また別の説は、紀元70年にエルサレムが崩壊したときの出来事を表わしていると言います。ティトウスはこの功績によってローマの皇帝になっていきます。

果たして、そうでしょうか？黙示録13章に、今私たちが学んでいる患難時代の後半に何が起こるのが記されています。次回から学んでいきますが、13：12、14、15を見てください。「:12 この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。」…「:14 また、あの獣の前で行うことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。」、この記事を見ると、まだ、この出来事は起こっていません。これは間違いなく、患難時代の終わりの出来事です。

イエスはマタイ24：15でダニエルの預言を使って『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、」終わりが近いということと言われました。そして、今、黙示録13章を見ると、ここで言われていることはまさにイエスがマタイ24章で言われた出来事であると、ですから、マタイ24章に書かれていることは過去の出来事ではなく、これから起こることだと分かります。

また、もう一つ、パウロ自身の証を見てください。終わりの日に関してパウロはこのように言っています。Ⅱテサロニケ2：3、4「:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。:4 彼は、すべて神と呼び宣言します。」、黙示録13章を見ていくと、まさにここに書かれている人物がそこに描かれています。ということは、パウロがこの箇所では教えている出来事は、過去のことでなく未来のことです。そして、イエスが語られたマタイ24章の預言も、過去のことでなく、これから先のことです。

イエスも言われました。これから大変な苦しみが訪れると。マタイ24：21「世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。」、だから、大患難というのです。確かに、そのことが黙示録12：13に書かれていました。しかし、14節を見ると、どんな迫害があろうと、どんな困難があろうと、どんなにサタンがイスラエルを苦しめようと

ても、神は彼らを守られると言います。

2. 主の助け 14節

どのような迫害があろうとも主はイスラエルを守られると14節に書かれています。「しかし、女は大鷲の翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。」、

1) 翼が与えられる

彼らは約束のところで守られる、しかも、その期間は「一時と二時と半時の間、」、「三時半」である。すなわち、42ヶ月、1260日、3年半、ですから、患難時代の後半です。

2) 養われる

神はちゃんと彼らの必要を覚えて満たしてくださるのです。特に、この患難時代の後半にあつては、異邦人のクリスチャンたちによってその必要が満たされるということが、マタイ25章に記されています。そのことはすでに見て来ました。

3. 「蛇」の迫害 15節

その後、サタンはそれで迫害を止めるのではありません。この後、益々迫害をエスカレートさせていきます。15節「ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。」、「蛇」とは実際の蛇ではありません。12:9にサタンのことがこのように描かれていました。「こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。…」と。サタンがイスラエルに対して為す迫害の様子が記されています。

・サタンの怒りがユダヤ人たちに注がれる

バークレー師は「旧約聖書では、しばしば、試練、苦難、迫害を大洪水にたとえている。」と言っています。サタンは「その口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうと…」します。濁流をもって女を押し流そうとしている光景です。もちろん、これは象徴です。このようなことがイスラエルの上に下るということです。

* 確かに、旧約聖書にはこれらのことを象徴的に記している箇所がある

詩篇69:1-4「:1 神よ。私を救ってください。水が、私ののどにまで、入って来ましたから :2 私は深い泥沼に沈み、足がかりもありません。私は大水の底に陥り奔流が私を押し流しています。 :3 私は呼ばわって疲れ果て、のどが渇き、私の目は、わが神を待ちわびて、衰え果てました。 :4 ゆえなく私を憎む者は私の髪の毛よりも多く、私を滅ぼそうとする者、偽り者の私の敵は強いのです。それで、私は盗まなかった物をも返さなければならぬのですか。」、ダビデ自身が水の中にいたということではなく、ダビデが大変な苦しみに遭っていたということをこのように表現しているのです。

詩篇69:13-15「:13 しかし【主】よ。この私は、あなたに祈ります。神よ。みこころの時に。あなたの豊かな恵みにより、御救いのまことをもって、私に答えてください。 :14 私を泥沼から救い出し、私が沈まないようにしてください。私を憎む者ども、また大水の底から、私が救い出されるようにしてください。 :15 大水の流れが私を押し流さず、深い淵は私をのみこまず、穴がその口を私の上で閉じないようにしてください。」、確かに、ここにも「大水」という表現を使っています。

詩篇124:2-5「:2 「もしも【主】が私たちの味方でなかったなら、人々が私たちに逆らって立ち上がったとき、 :3 そのとき、彼らは私たちを生きたままのみこんだであろう。彼らの怒りが私たちに向かって燃え上がったとき、 :4 そのとき、大水は私たちを押し流し、流れは私たちを越えて行ったであろう。 :5 そのとき、荒れ狂う水は私たちを越えて行ったであろう。」、実際の水が彼らを越えていったということではありません。「彼らの怒りが私たちに向かって燃え上がったとき、」と、大水が「怒り」と関連したものとして記されています。

詩篇144:7「いと高き所からあなたの御手を伸べ、大水から、また外国人の手から、私を解き放し、救い出してください。」

ですから、これらの箇所から、確かに、バークレーが言ったように、大変な困難や様々な迫害、試練を「大水」という表現をもって記していることを見ることができます。もう一箇所見ていただきたいのはエレミヤ書です。

エレミヤ47:2-3「:2 【主】はこう仰せられる。「見よ。北から水が上って来て、あふれる流れとなり、地と、それに満ちるもの、町とその住民とにあふれかかる。人々は泣き叫び、地の住民はみな泣きわめく。 :3 荒馬のひづめの音、戦車の響き、車輪の騒音のため、父たちは氣力を失って、子らを顧みない。」、何のことを言っているのか？ 1節を見ると「パロがまだガザを打たないうちに、ペリシテ人について、預言者エレミヤにあった【主】のことば。」とありペリシテ人に対する預言だと言います。それは、ペリシテ人がバビロンに攻められるということ、紀元前586年のことです。ご存じのように、バビロンは南王国ユダを滅ぼします。そのときにこのペリシテも滅ぼします。ペリシテは地図を見るなら、地中海沿岸のヨッパからガザ

までの地域のことです。そこがバビロンによって攻められるというのです。そのことが47:1に書かれています。そして、エレミヤにこのペリシテについての預言があった。「北から水が上って来て、あふれる流れとなり、地と、それに満ちるもの、町とその住民とにあふれかかる。」と、バビロンによるさばきのことです。バビロンによって彼らが打ち負かされるときのことです。

***そうすると、この「大水」とはいったい何を意味しているのか？**

確かに、迫害、困難ですが、さらには、敵によって経験する苦しみのことです。イスラエルが敵であるサタンから様々な苦しみを受けることをヨハネはこのような表現で表わしているのです。サタンの怒りがユダヤ人たちに注がれるということです。ウォーレン・ワーズビー師は「反ユダヤ主義の宣伝が世界的に為されるだろう。恐らく、いろいろなメディアを通して、世界的にユダヤ人を排斥しようとする動きが広がるだろう。それによって多くのユダヤ人たちが殺害される。」と言います。

イエスは「これまでになかったような苦しみだ」と言われました。世界的にまた人々はユダヤ人たちを憎むということです。そういうことが起こるであろうと。また、ジョン・ワルブード師は「イスラエルを滅ぼそうとするサタンのあらゆる努力をこの15節のみことばは表わしている。」と言います。ですから、サタンはあらゆるものを用いてイスラエルを苦しめようとするのです。

4. 主の助け 16節

それで終わるのか？16節をご覧ください。「しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。」、サタンは必死になってイスラエルを迫害しますが、神はイスラエルを助けられるのです。よく見ると、「神が助ける」とは書かれていません。「地は女を助け」とあります。女を助けるのは「地」とであると言うのです。恐らく、ここで言われていることは、神は自然界をもご自身の意のままに用いてイスラエルを守るといふ、この約束を果たすということでしょう。神はずっとイスラエルを守って来られました。そのことは約束されていたことだからです。そして、最後の最後に、サタンはイスラエルを苦しめますが、神は自然界を使ってイスラエルを守られるのです。

実は、そのように神が自然界を用いてみわざを為さるといふことはいくつかの箇所にも記されています。出エジプト15:12「あなたが右の手を伸ばされると、地は彼らをのみこんだ。」、実際に、皆さんは地が裂けて主に逆らう者たちを飲み込んだという出来事をご存じのはずです。多くのイスラエルの民がモーセとアロンに反対したときにそのことが起こりました。

民数記16章にそのことが書かれています。16:1にだれがモーセたちに対する反逆を企てたのかが書かれています。「レビの子ケハテの子であるイツハルの子コラは、ルベンの子孫であるエリアブの子ダタンとアビラム、およびベレテの子オンと共謀して、」と4人の名前が出て来ました。コラとダタン、アビラム、オンです。彼らが共謀してイスラエルのリーダーたちを惑わすのです。2節「会衆の上に立つ人たちで、会衆で選出された名のある者たち二百五十人のイスラエル人とともに、モーセに立ち向かった。」と、つまり、彼らはモーセたちに不満を抱いていたのです。彼らはリーダーたちを巻き込んでモーセたちに向かうのです。彼らが主張したことは3節「彼らは集まって、モーセとアロンとに逆らい、彼らに言った。「あなたがたは分を越えている。全会衆残らず聖なるものであって、【主】がそのうちにおられるのに、なぜ、あなたがたは、【主】の集会上に立つのか。」、つまり、彼らは「我々はみな神の前に平等ではないか。なぜ、あなたがたが私たちの上に立つのか？あなたがたがしていることは私たちにもできることだ。」と、これが彼らの不満でした。そして、その後、8-14節を見ると彼らはモーセの言うことに耳を貸さないでモーセたちに逆らっている様子が書かれています。「:8 モーセはさらにコラに言った。「レビの子たちよ。よく聞きなさい。:9 イスラエルの神が、あなたがたを、イスラエルの会衆から分けて、【主】の幕屋の奉仕をするために、また会衆の前に立って彼らに仕えるために、みもとに近づけてくださったのだ。あなたがたには、これに不足があるのか。:10 こうしてあなたとあなたの同族であるレビ族全部を、あなたといっしょに近づけてくださったのだ。それなのに、あなたがたは祭司の職まで要求するのか。:11 それだから、あなたとあなたの仲間のすべては、一つになって【主】に逆らっているのだ。アロンが何だからといって、彼に対して不平を言うのか。:12 モーセは使いをやって、エリアブの子のダタンとアビラムとを呼び寄せようとしたが、彼らは言った。「私たちは行かない。:13 あなたが私たちを乳と蜜の流れる地から上らせて、荒野で私たちを死なせようとし、そのうえ、あなたは私たちを支配しようとして君臨している。それでも不足があるのか。:14 しかも、あなたは、乳と蜜の流れる地に私たちを連れて行かず、畑とぶどう畑を受け継ぐべき財産として私たちに与えてもいない。あなたは、この人たちの目をくらまそうとするのか。私たちは行かない。」、こうして神が立てられた霊的リーダーたちに逆らったのです。5節には「それから、コラとそのすべての仲間とに告げて言った。「あしたの朝、【主】は、だれがご自分のものか、だれが聖なるものかをお示しになり、その者をご自分に近づけられる。主は、ご自分が選ぶ者をご自分に近づけられるのだ。」とあります。「あしたの朝、」そのことがはっきりすると言います。

そして、23節から見ると「:23 【主】はモーセに告げて仰せられた。:24 「この会衆に告げて、コラとダタンとアビラムの住まいの付近から離れ去るように言え。」と、彼らに対する神のさばきが下るのです。29-

30節を見ると「:29 もしこの者たちが、すべての人が死ぬように死に、すべての人の会う運命に彼らも会えば、私を遣わされたのは【主】ではない。」と、他の人たちと同じような死に方をするのなら「私を遣わされたのは【主】ではない。」と、「:30 しかし、もし【主】がこれまでにないことを行われて、地がその口を開き、彼らと彼らに属する者たちとを、ことごとくのみこみ、彼らが生きながらよみに下るなら、あなたがたは、これらの者たちが【主】を侮ったことを知らなければならない。」、モーセはこういうことを民に告げます。31-33節を見ましょう。「:31 モーセがこれらのことばをみな言い終わるや、彼らの下の地面が割れた。:32 地はその口をあけて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての持ち物とをのみこんだ。:33 彼らとすべて彼らに属する者は、生きながら、よみに下り、地は彼らを包んでしまい、彼らは集会の中から滅び去った。」、民数記26:10にもこの出来事が再び記されています。「そのとき、地は口をあけて、彼らをコラとともにのみこみ、その仲間は死んだ。すなわち火が二百五十人の男を食い尽くした。こうして彼らは警告のしるしとなった。」、

申命記11:6「また、ルベンの子エリアブの子であるダタンとアビラムに対してなされたことである。イスラエルのすべての人々のただ中で、地はその口をあけ、彼らとその家族、その天幕、また彼らにつくすべての生き物をのみこんだ。」

詩篇106:17「地は開き、ダタンをのみこみ、アビラムの仲間を包んでしまった。」、

確かに、神はときにはこのように地を引き裂いて神に逆らう者たちをさばかれたということ、私たちはこれらのみことばから教えられます。

黙示録に戻って、サタンはこれまでにないような、人類が見たこともない大変な苦しみ、迫害をイスラエルの上にもたらすが、「地は女を助ける」と言います。恐らく、今の私たちがみことばを見るなら、神はモーセのときと同じように、地を裂いて、サタンに用いられてイスラエルを迫害していた人たちを飲み込ませて彼らを滅ぼされる、そのことは十分に有り得ることだと知ります。こうして、神はイスラエルを守られるのです。どんなにサタンが多くの人々を使ってイスラエルを迫害したとしても、神は自然界をも使って彼らを守っていかれるということです。ジョン・ワルブード師は「サタンはあらゆる努力をしてイスラエルの民を迫害し、抹殺しようとするということである。神の介入によって、この計画の裏をかくために、自然的、および、超自然的手段が用いられ、イスラエルの残りの民は大患難時代を通して安全に守られる。」と言っています。つまり、サタンが何をしようと、神の計画は必ず成されるということです。神が守ると言われたなら、敵がだれであろうと守られる、それが神です。

5. 竜の怒り 17、18節

1) 竜は女に対して激しく怒った

17節「すると、竜は女に対して激しく怒り、」、彼らはイスラエルを滅ぼそうと試みたのですが、それができなかったので、それで彼ら、サタンとその手下たちは、大変な怒りをもつということが書かれているのです。皆さん思いませんか？なぜ、イスラエルはこうしてサタンの標的になるのでしょうか？これまでも見て来たように歴史がそのことを明らかにしています。イスラエル民族は大変な迫害を受けて来ました。様々な捕囚にも会いました。1948年まで、彼らは国をも失いました。国を得た後も大変な状況は続いています。周りは敵だらけです。でも、その中でもイスラエルは守られています。

***なぜ、イスラエルはこれほどまでに迫害されるのか？それは、**

(1) 彼らが神によって選ばれた民、選民だから

神はイスラエルを通してこのイスラエルを通してご自身の計画を成そうとしておられます。サタンの狙いは神に逆らって神の計画を阻止することです。神の計画を邪魔して自分の計画を成し遂げようと考えています。ですから、神の計画が成されるイスラエル民族が邪魔なのです。そこでサタンはこのイスラエル民族を殺してしまえば、抹殺してしまえば、神の計画は成されないからと、イスラエルに対する迫害を続けるのです。

(2) イスラエルを通して、聖書の真実さ、また、イスラエルの神が真の神であることを証明するから

大変な迫害を経験して来たこのイスラエル、でも、神は彼らを守って来られた、そのことによって、神が約束されたことは必ずそのようになる、つまり、神のみことばは真実であることを彼らが証明しています。また同時に、イスラエルの神が真の神であることを様々な機会を通して、主は人々に証されました。たとえば、皆さんはダニエルのことを思い出しませんか？ダニエル書6章に書かれています2ですが、バビロンのダリヨス王はそそのかされてある命令を出します。6:7「国中の大臣、長官、太守、顧問、総督はみな、王が一つの法令を制定し、禁令として実施してくださることに同意しました。すなわち今から三十日間、王よ、あなた以外に、いかなる神にも人にも、祈願をする者はだれでも、獅子の穴に投げ込まれると。」、このような命令です。

なぜ、このようなことを大臣や太守たちが申し合わせて王のところにやって来たのか？彼らはダニエルを訴える口実を考えていたからです。彼らはダニエルが日に三度彼の神に祈っていることを知ってい

ました。そこでこのような命令を法律化してダニエルを殺そうとしたのです。王はそれに署名したのでそれは法律となりました。ダニエルはそのことを聞いても自分の家に戻っていつもと同じように主の前に祈りました。それを見ていた大臣たちは恐らくほくそ笑んで「しめた！これでダニエルを処分できる！」と思ったでしょう。そして、王の前に訴えるのです。そして、ご存じのように、ダニエルはライオンの穴の中に投げ込まれるのですが、ライオンは彼に害を与えることはなかった。19-22節「:19 王は夜明けに日が輝き出すとすぐ、獅子の穴へ急いで行った。:20 その穴に近づくと、王は悲痛な声でダニエルに呼びかけ、ダニエルに言った。「生ける神のしもべダニエル。あなたがいつも仕えている神は、あなたを獅子から救うことができたか。」:21 すると、ダニエルは王に答えた。「王さま。永遠に生きられますように。:22 私の神は御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の害も加えませんでした。それは私に罪のないことが神の前に認められたからです。王よ。私はあなたにも、何も悪いことをしていません。」、そのときに、このダリヨス王はこのように言いました。26節「私は命令する。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震え、おののけ。この方こそ生ける神。永遠に堅く立つ方。その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。」と。このように、

◎敵に囲まれながら守られているイスラエルの民は、彼ら自身がそのことを証明する

◎人々を通して何度も為される神のみわざを人々は見て来た

こうして、神は選民であるイスラエルを通して、ご自分が真の神であり唯一の神であることを明らかにして来られました。だから、サタンは放って置きたくないのです。選ばれたこの民を何とか滅ぼそうとするのです。サタンの迫害を見て来ました。サタンはまず、「子」、キリストに対して迫害をし殺そうとしました。しかし、キリストがすべてに勝利して天に凱旋した後、キリストを迫害することができないので、その怒りの矛先を女に、つまり、イスラエルに向けました。ところが、このイスラエルを神が守られ、彼らを滅ぼすことができなかつたので、次に、

2) 女の子孫の残りの者たちと戦おうとして出て行った

17節の続き「女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。」、「女の子孫の残りの者」とはいったいだれのことでしょう？感謝なことに、みことばがその答えをくれます。「すなわち」と説明を加えてくれています。

* 神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たち

- ・神の戒めを守り : この「守る」という動詞は現在形です。「継続して守り続けている人たち」のことです。
- ・イエスのあかしを保っている : この「保つ」という動詞も同じように現在形を使っています。「保ち続けている人たち」のことです。

「神の戒め」「イエスのあかし」、これらはいったい何なのか？どちらも「神の」「イエスの」ということで、これらの名詞は属格で書かれています。日本語では「神の」「イエスの」と訳せます。しかし、マスターズ神学校のドクター・トーマスは「「神の」、また、「イエスの」のどちらの属格も主格である。」と言います。「神の戒め」とは「神が与えた戒め」のこと、「イエスのあかし」とは「イエスがなされたあかし」のことで、それぞれ属格だが、それぞれ主格、主語であると言うのです。

確かに、ギリシャ語の文法の中には主格の属格というのがあります。属格の名詞が行動を生み出している場合です。まさにここがそうなのです。ですから、「神の戒め」とは「神が定められた戒め」のことで、「イエスのあかし」とは「イエスご自身が与えられたあかし、教え」のことです。この人々は、神が与えた戒めを守り続けているのです。イエスがなされた教えを彼らは保ち続けているのです。

いったい、だれのことでしょう？クリスチャンたちのことです。Iヨハネ2:3には「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。」とあります。4節「神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。」と、ここでも「守る」という動詞はどちらも現在形です。つまり、この箇所です黙示録を書いたヨハネが教えていることは、本当のクリスチャンの特徴は「神の命令を継続して守り続ける」ということです。クリスチャンだと言っている、神の命令を継続して守り続けていない人たちはそうではないと教えるのです。

また、ヨハネの福音書8:47、ここもヨハネが記していますが、「神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」「聞き従います。」も現在形です。継続して聞き従っていくと言うのです。ですから、イエスはこのように言われました。「あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」と。あなたがたが継続して聞き従っていこうとしないのなら、あなたがたは救われていないということです。ヨハネだけでなくイエスも同じことを言っておられます。

ですから、救いに与っている人の特徴は、すべてにおいて完璧な罪のない生活をしている？それが救われた人ですか？もし、そうだとするなら、私たちはみな救われていないことになります。イエスを信

じた後も、私たちは残念ながら罪との戦いをし罪に敗北することが多々あります。そのようなことを言っているのではありません。主によって救われた人たちは神の命令に従い続けていきたいと思うのです。失敗したら悔い改めてまた従って行こうとする、そのような歩みを継続している者たちです。「神の命令なんて関係ない。自分の人生だから好きに生きる。」とそのようなように継続して生きている人たちではありません。その人の信仰はどうか分かりません。神が救われた人々、神によって救われた人々、その人たちは神が変えてくださるのです。その人たちは失敗の連続だけれども神の命令に従い続けていきたいと、そのような思いを持って生きている人たちです。

あなたはそのように生きておられるでしょうか？神のことばに聞き従います。悲しいことに、神のことばに完璧に聞き従えないけれど、守り続けていくことが出来ないけれど、失敗だらけだけれど、自分の心の中に神のことばに従っていきたいという思いを持って生きているのです。だから、私たちはいつも神の前に自分の罪を告白して生きていこうとするのです。こういう人が救われていると言うのです。このような人たちのことが黙示録 12 : 17 に記されているのです。「すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たち」、つまり、救われている人たちのことです。

17 節を見てください。サタンが女に対して大変な怒りを持ち、そして、「女の子孫の残りの者」に戦いを挑むのです。この「女の子孫の残りの者」とはだれですか？この箇所が私たちに教えるのは「彼らはユダヤ人、そして、クリスチャン」です。もうすでに、その人たちのことは黙示録の中に出て来ました。あの 14 万 4 千人のクリスチャンたちです（7 : 2-8、14 : 1-5）。ユダヤ人クリスチャンたち、イスラエルの 12 の部族から各 1 万 2 千人ずつ選ばれた人たちです。彼らは確かに、女、イスラエルの子孫です。イスラエルは荒野に逃げたのです。そして、神が彼らを守ってくれているのです。でも、世界中で、まだ、この大患難時代にあって、キリストの福音を伝え続けている者たちがいるのです。この 14 万 4 千人を中心とした救いに与ったユダヤ人たちです。彼らは全世界にあって福音宣教を続けているのです。

そこで、キリストを迫害することを試みたサタンはそれが叶わなかったので、今度はイスラエルを迫害し滅ぼそうとして、何とか神の計画が成されることを阻止しようとした。でも、それも出来なかった。今度、サタンは生き残っているユダヤ人のクリスチャンたちに対しての迫害を為すのです。特に、この 14 万 4 千人に対してです。でも、大きな喜びがあります。14 章の初めに、小羊とともに 14 万 4 千人の人たちがいることが書かれています。何が預言されているのか？この 14 万 4 千人はサタンがどんなに迫害しても、神が彼らを守られます。恐らく、彼らは死を経験しないのです。

すごい神でしょう！思いませんか？私たちがどうすることも出来ないサタンです。でも、サタンがどんなに頑張ってもこの神に打ち勝つことは出来ないのです。最後の勝利者は神なのです。そのことがここに書かれているのです。サタンはその怒りの矛先をクリスチャンであるユダヤ人たちに向けます。そして、彼らとの戦いがこの後始まっていくのです。しかし、神は彼らを守っていかれます。

信仰者の皆さん、これがあなたや私の神です。私たちの敵であるサタンが何をしようと太刀打ちできません。神が仰った通りにすべてのことが成されます。サタンは知っているのです。もう間もなくすると自分はさばかれ永遠の地獄に行くことを…。ですから、最後の最後に彼は必死になって神の計画を台無しにしようと試みるわけです。見事にすべて失敗します。

神だけが勝利者です！そして、感謝なことに、私たちはその神の子とされたのです。こんな神があなたの神であり、こんな神があなたとともにいてくださり、こんな神の御手のうちにあなたは保たれているのです。希望を持って生きることです、皆さん！ 確信を持って生きることです！ この約束を覚えて生きることです！私は勝利者である主とともに生きる者だ！と。

この後、最後のサタンのあがきが出て来ます。それは私たちは次回学んでいきたいと思います。

《考えましょう》

1. 「蛇が女を押し流そうとして大水を流した」ことが 15 節にあります。これは何を意味していますか？
2. サタンが「女」を迫害する理由は何でしょう？
3. 「女の子孫の残りの者」について説明してください。
4. 今日のみことばからあなたが教えられたことを信仰の友と分かち合い、その実践のために互いに祈り合ってください。